

ひとりから

真宗大谷派青少幼年センター機関紙『ひとりから』
発行日/2015年3月1日(年4回発行)
発行所/真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター
〒600-8168 京都市下京区室町通六条下る
TEL: 075-354-3440 FAX: 075-351-9599
E-mail: oyc@higashihonganji.or.jp
発行人/青少幼年センター長 木越 渉



一人の青年を誘って 共に聞法の座につく…

寺澤 三郎
青少幼年スタッフ

「散らかった部屋をどのように整理整頓しようか?といくら考えても部屋は片付きません。片付けるという行動において初めて現実的な整理整頓の形に気づくのです」

私にとって青年教化に歩み出す力となった言葉。実際に動くことでしか気づいていけないという私を教えてください。そして議論と思索にとどまる私の怠慢を許さない言葉です。

教化活動の現場ですっぱりぬける青年教化に関わりはじめて16年。今、二つのことを思います。一つは「青年はみんな丁寧に誠実に仏教のお話を聞いてくださる」ということ。もう一つは「なぜお念仏の教えと一緒に聞こう!と堂々と同世代の青年を誘えない私だったのか?」ということ。

青年研修会に長年来てくれている地元の同級生が、ある時、私に言いました。「仏教って聞いてみるとおもしろいね。他のお坊さんの法話もいいけど、お坊さんであるあなたの法話も聞きたいよ」と。

「一人の青年を誘って共に聞法の座につく…」

このことの中で多くの宿題をいただき続けています。

蓮ちゃん通信 その①

2015年6月18日(木)～19日(金)

「ひとりからはじめる子ども会」 講習会を開催します!

子ども会開設にむけての悩みをスタッフが共に考え、その実践について体験していただきながら学ぶ講習会を開催します。「お寺で子ども会をはじめてみたいな…」そんな皆様のご参加、お待ちしております!!

【定員10名/6月3日(日)申込締切】

※詳しくは、「真宗」4月号・5月号をご覧ください。

子ども会情報募集中!

“お寺につどう子どもたち”の写真や動画など子ども会の内容を寄せてください。

宛先は、「郵送」または「E-mail」
oyc@higashihonganji.or.jp
「ひとりから」子ども会情報係 まで



お誕生ありがとうございます

長崎教区
寺本 温



4月8日はお釈迦様のお誕生をお祝する「花まつり」です。皆さんはお誕生をお祝いするとき、何と言いますか？多くは、「お誕生日おめでとう」だと思います。それも悪くないけれど、お誕生には「二つのごんごり」「ありがとつ」と言つことも大切だと思います。

一つ目は、お釈迦様がこの世にお生まれになってお悟りを開かれ、教えを説いてくださったということ。その教えはまず、生まれてきた意味を「天下唯我独尊」(てんかただいがどくそん)と比べることなく、どんな自分も尊い人生といただくことが大切」と説かれています。お釈迦様は2600年ほど

前に釈迦族の皇太子としてお生まれになられました。皇太子とはいろんなことが自分の思いどおりになりやすい地位だということです。しかし、そこには本当の幸せはないとその地位を捨てられ、お悟りを開かれたのです。それは、自分の都合のいいことばかり考え、思いどおりになることが幸せだと願うとき、都合よくならない自分や思いどおりにならない今がいただけなくなってしまうということでしょう。つまり自分を苦しめたり、つまらなく思ってしまうのも自分だということです。言い方を変えれば、都合のいい自分も、都合の悪い自分も人生にとっては大切な尊いかけがえのない今をいただいているということ。そこに気づかされると、どんな人生も丸ごと大切に尊い人生だといいただけます。また、私たちはついつい他の人と比べて幸せを感じたり、不幸を感じたりしてしまいます。お釈迦様は「誰と比べる必要もなく、あなたそのものが大切で尊いのです」と教えてくださいます。そうしますと、お釈迦様が生まれてこられなかったら、

子どもたちと聞く法話

自分が自分に生まれてきたことを本当に喜ばなかったかもしれないということ。ですから、「お釈迦様ようこそ生まれてくださいました。ありがとうございます」と言つのです。

二つ目は、お釈迦様の教えに出会わせていただいて、どんな自分の人生も尊くいただけるとき、自分を生んでくださったお父さんやお母さんに「生んでくれてありがとう」と心の底から言えるということ。都合のいい自分しか認められないときは、都合がよければ「生まれてよかった」と感謝しますが、都合が悪くなると「親が勝手に産んだ」と恨んでしまいます。皆さんが生まれてきたことを本当に喜ぶとき、お父さんやお母さんも「生まれてきてくれて本当にありがとう」という喜びの心が起こってきます。

このことから考えてみると、「おめでとう」は、自分ということを通さなくても相手の気持ちを思つて言えますが、「ありがとつ」は自分と相手の関係を通してしか出てこないということ。お釈迦様の教えは、なかなか気付きにくい自分の本当の姿を教えてください。それと同時に、見失いがちな周りの人々との大切な関係を見出させてください。私の父が生きている

ころよく、「自分以外の人が茶碗を割つたら『あつ！茶碗を割つたね』と言つけれど、自分が割つたときは『茶碗が割れた』と茶碗のせいのように言つてしまつね」と言つていました。まさに、自分のことはなかなかわからないので、人に対して自分をえこひいきしていることを教えられました。

一度、花まつりや自分の誕生日で「お釈迦様お誕生おめでとう。そして、ありがとつ」、「生んでくれてありがとう」と試してみてもいいですか？

蓮ちゃん通信 その2

2015年4月14日(火) 東北

「絵本ではじめる講習会」を開催します!

絵本の魅力にふれていただくとともに、その活用について学んでいただく講習会を今年度は岩手県盛岡市で開催いたします。絵本を活用した子ども会の一助に、ぜひご参加ください。

【定員30名/3月20日(金)申込締切】

※詳しくは、「真宗」2月号・3月号をご覧ください。



手軽で
カンタン!

紅茶で手染め

ひとりからはじめる
イベントレシピ

あなただけのステキな1枚を。



準備
するもの

- ガーゼハンカチ ●輪ゴム
- 紅茶のティーバッグ (賞味期限切れのものでOK)
- なべ (少し色がつくことがあります)
- 小石など (模様をつけるために用います)

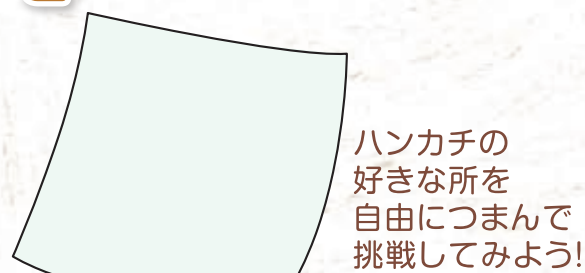
1 なべに紅茶を煮出します。



3 1のなべにハンカチを入れ、
20分ほど弱火で煮ます。



2 「しぼり」をつくります。

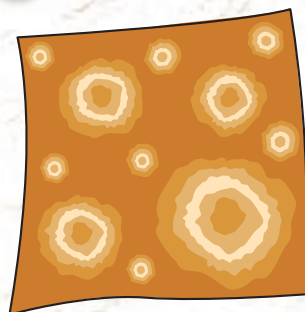


輪ゴムできつくりしぼります。
※しぼった所だけ染まりません。

色々な模様が出るよう
何ヶ所もためてみましょう!

4 火を止めて2時間ほど
ハンカチをなべに浸けたままに
しておきます。

5 水で洗い、
輪ゴムをはずすと...



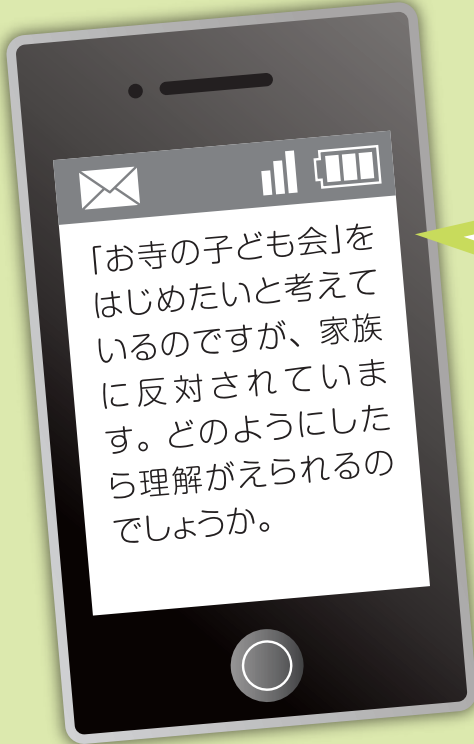
こはく
琥珀色の
ステキな
紅茶染めの
完成です!

1つとして同じものはできません。
あなただけの、あなたの模様
できあがりです。

Re:

サガエさんおしえて

子ども会での悩みや困りごとをサガエさんにお尋ねするコーナーです。



「お寺の子ども会」をはじめたいと考えているのですが、家族に反対されています。どのようにしたら理解がえられるのでしょうか。

さがえ なつみ
佐賀枝 夏文

1948年生まれ。大谷大学名誉教授。児童福祉施設等での児童指導員、心理判定員を経て、現在は高倉幼稚園長で青少幼年センター非常勤嘱託。カウンセラーネーム「サガエさん」です。



わたしの「ともしび」として

「お寺の子ども会」をはじめたいという方から、ご質問をいただきました。子どもは「可愛い」「いいもんだ」と語られるときと、子どもは「うるさくて大変だ…」「本堂や境内を汚すから…」ということもあります。それは、子どもは「おとな」のように外聞や外見を気にすることが少ないからでしょう。

子どもたちは無為自然に、ところかまわず、何ごとにも頓着なく遊びます。また、子どもは全身で「気づき」や「発見」の喜びを生きています。さまざまなことに固執し、頓着しているわたしたち「おとな」に「そんなに窮屈に生きていいのですか」と揺さぶりかけているようです。「お寺の子ども会」は、子どもを「ともしび」としてあゆむお寺の役割でもあり、あり方であるとおもいます。

さて、「お寺の子ども会」をはじめするには、ご門徒さんや家族の支援が必要になります。あなたの「おもい」を、あせらずに語り始めてはいかがでしょう。語りあいの「対話」から、出発点の合意が見つかればスタートです。支え、支えられ、みんながつくる「お寺の子ども会」として誕生してください。

子ども会の悩みや困りごとをお寄せください!

これから子ども会をはじめようとする方や、すでに開かれている方のご質問に「Re:サガエさん教えて」のコーナーにてお答えします。

宛先は…oyc@higashihonganji.or.jp

蓮ちゃん通信 その③

当紙は必要部数無償で配布いたします!

当紙は、お寺での子ども会開設や継続の一助として発行しております。実際にお寺での子ども会に携わろうとされる方のお手元に届けるべく、必要部数無償にて配布いたします。(数に限りはありますが、バックナンバーも用意しております) まだ本紙をご覧になられたことのない方にご紹介いただき、ぜひご活用ください。



◎「青少幼年を青少幼年活動の主体者とする」。そこで見落としがちなのは、子ども会や青少幼年教化に携わる私もまた青年であるということ。仏法を伝えるのは、大河の源流にインクを一滴垂らして大海の色を変えようとするような仕事だと教えられました。「ひとりから」…まず私が自らの信、すなわち仏に背く私を確かめ続けたいと思います。一子もひとり歩きはじめる春は春―(青七主幹)

◎「子ども会も青年会も、同朋会だよ」と先輩が教えてくれました。「弥陀の本願には老幼善悪のひとをえらばれず」(『歎異抄』) 世代や立場が違っても、共に手を合わせ、教えを聞き続けていくことが仏より願われています。私自身、それに応えていく歩みを「子ども会」や「青年会」よりいただいています。(編集長)

編集後記

